

令和4年度 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト開催結果概要

九州経済産業局
カーボンニュートラル推進・エネルギー広報室

九州経済産業局と、パブリック・ディベート実行委員会（実行委員長：池田賢治福岡工業大学教授）は、幅広い層、特に若年層に対して省エネルギーの更なる普及啓発及び情報提供を行うため、省エネをテーマに中学生・高校生を対象とした「政策提案型パブリック・ディベートコンテスト」を開催しました。当日は、中学校3チーム、高校6チームが参加しそれぞれ「ユニーク」かつ「斬新なアイデア」の省エネ政策提案をもとに論戦を繰り広げました。今年度は、中学・高校ともにすべての試合をYouTubeライブ配信（配信希望者限定）を行いました。九州経済産業局は、今後とも若年層も含めた省エネ・エネルギー環境広報に積極的に取り組んで参ります

開催日時：令和5年（2023年）1月8日（日）

開催方法：オンライン

テーマ：2050年カーボンニュートラルの実現を目指し
～「じぶんごと」として捉える施策とは～

試合結果：中学の部 優勝 宮崎西高等学校附属中学校（宮崎県）
準優勝 尚綱(しょうけい)中学校（熊本県）
高校の部 優勝 宮崎西高等学校（宮崎県）
準優勝 慶進高等学校（山口県）



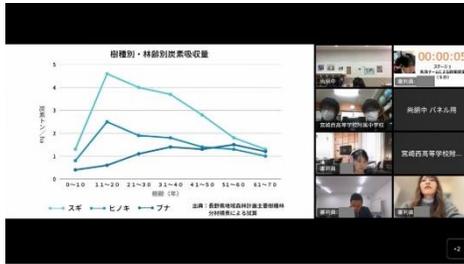
☆表彰式☆



九州経済産業局
電源開発調整官 野尻

パブリック・ディベートコンテスト
実行委員会委員長
池田賢治教授

☆主催者挨拶☆



☆ 試合の様様 (中学) ☆

省エネ政策提案概要	
《中学》 東明館中学校	新たな発電方法 床発電と潮力発電
《中学》 尚綱中学校	「食の裏側の見える化」で日本全体が協力するムード作り
《中学》 宮崎西高等学校附属中学校	消費電力可視化アプリとセンサーライト設置支援で、無駄をなくした豊かな社会
《高校》 東福岡高等学校	日々の身近なエコ活動にポイントを付与、カルポアプリで見える化
《高校》 東明館高等学校A	ガソリン車で二酸化炭素排出量の通知を行う
《高校》 東明館高等学校B	楽しく家庭の電気使用率を下げるエコポイントアプリ
《高校》 尚綱高等学校	一人一人が「一つまみの努力」を積み重ねて大きな成果をうみだす
《高校》 宮崎西高等学校	新たな手段をとり入れたゼロエネルギーハウスの建設と節電・エネルギー自給へのポイント付与
《高校》 慶進高等学校	家族の絆を深める 一億総団らん計画

☆省エネトークセッション☆

参加校の省エネ政策提案をベースに、2人の講師から参加校への提言に関する問いかけなどで、理解を深めました。

参加チームの省エネ政策提案概要

《中学》 東明館中学校	新たな発電方法 床発電と潮力発電
《中学》 尚綱中学校	「食の裏側の見える化」で日本全体が協力するムード作り
《中学》 宮崎西高等学校附属中学校	消費電力可視化アプリとセンサーライト設置支援で、無駄をなくした豊かな社会
《高校》 東福岡高等学校	日々の身近なエコ活動にポイントを付与、カルポアプリで見える化
《高校》 東明館高等学校A	ガソリン車で二酸化炭素排出量の通知を行う
《高校》 東明館高等学校B	楽しく家庭の電気使用率を下げるエコポイントアプリ
《高校》 尚綱高等学校	一人一人が「一つまみの努力」を積み重ねて大きな成果をうみだす
《高校》 宮崎西高等学校	新たな手段をとり入れたゼロエネルギーハウスの建設と節電・エネルギー自給へのポイント付与
《高校》 慶進高等学校	家族の絆を深める 一億総団らん計画

令和4年度 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト開催結果概要

中学校の部

中学校 優勝

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校の皆さん



「優勝という結果を得られ、とても嬉しいです。これからも環境や省エネについての意識を持って過ごしたいです。」

政策提案：消費電力可視化アプリとセンサーライト設置支援で、無駄をなくした豊かな社会

中学校 準優勝

尚綱中学校の皆さん



「この大会を通してカーボンニュートラルについて調べたことで、地球環境についてたくさんのことを学ぶことができましたし、自分の生活を見直すきっかけにもなりました。来年は是非優勝したいです。」

政策提案：「食の裏側の見える化」で日本全体が協力するムード作り

高校の部

高校 優勝

宮崎県立宮崎西高等学校の皆さん



「今回、優勝することができて本当によかったです。若者が環境について考えるこのような機会が今後さらに増えることを期待しています。」

政策提案：新たな手段をとり入れたゼロエネルギーハウスの建設と節電・エネルギー自給へのポイント付与

高校 準優勝

慶進高等学校の皆さん



「大会を通じて、チームメイトとの絆が深まり、環境問題についての意識も高まりました。」

また来年の大会にも参加させていただきたいと思います」

政策提案：家族の絆を深める 一億総回らん計画

大会趣意書（政策を求める問い）

大会趣意

2050年カーボンニュートラルの実現を目指し
～ 「じぶんごと」として捉える施策とは ～

2021年10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画では、「2050年カーボンニュートラルの実現」及び「2030年度の温室効果ガス排出46%削減（2013年度比）、さらに50%削減の高みを目指す」という野心的な削減目標の実現に向けて、エネルギー政策の道筋を示している。その前提として、私たち国民一人ひとりの省エネへの取り組みも重要なものとして示されており、省エネ技術の開発や導入支援の強化に加え、需要サイドの徹底した省エネルギーの更なる追求のため、産業部門、業務・家庭部門及び運輸部門それぞれでの目標や基準の見直しがなされている。さらに省エネ法においては非化石エネルギーを含めて更なる使用の合理化を図ることでカーボンニュートラルの実現だけでなく、エネルギーの安定供給や経済性の向上を目指し検討がなされている。

2050年カーボンニュートラルへの挑戦は、産業構造や経済社会の大転換を伴うものであり、こうした野心的目標を達成するための道りはかなり険しい。

目標達成まで残り28年、国民一人一人にも脱炭素社会という未来への理解を深め、共鳴・共感し、「じぶんごと」として捉えて行動していくことが必要だと考えられる。

政策を求める問い

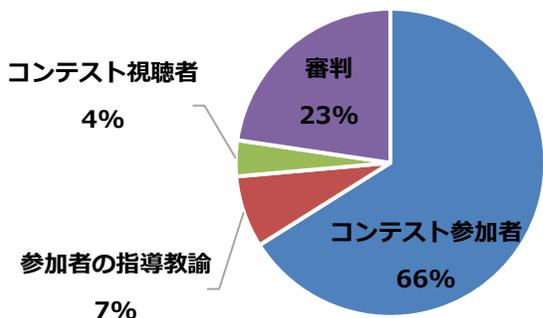
そこで、今回は、「2050年カーボンニュートラルの実現」にむけて

- ① 日常生活の中でどのような施策が考えられるのか。
- ② 国民に理解を回り、行動をおこしてもらうために何を行うべきか。ユニークかつ斬新なアイデアの提案を行って下さい。

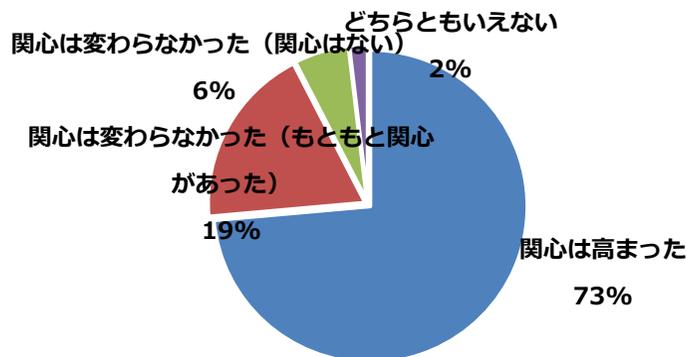
(参考) 令和4年度 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト (アンケート結果①)

- 1) コンテストは「非常に有意義だった」「有意義だった」とする回答が9割。
- 2) コンテスト参加に当たっての学習等の前後で、「関心は高まった」が73%、「関心はかわらない(もともと関心があった)」が19%と9割以上が関心
- 3) コンテスト参加に当たっての学習等の前後で、「(省エネ等に) 取り組むようになった」が5割、もともと取り組んでいたも3割。全体の8割弱が行動。
- 4) コンテストを「継続した方が良い」とする回答が9割以上。
- 5) コンテストの対面開催を希望する声が7割以上、オンライン開催希望は25%

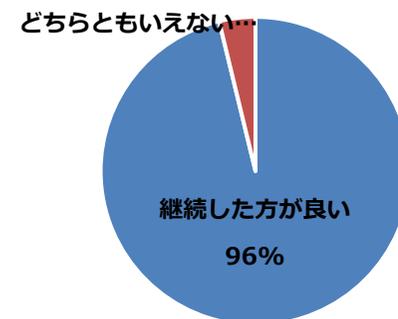
【アンケート回答者の属性】



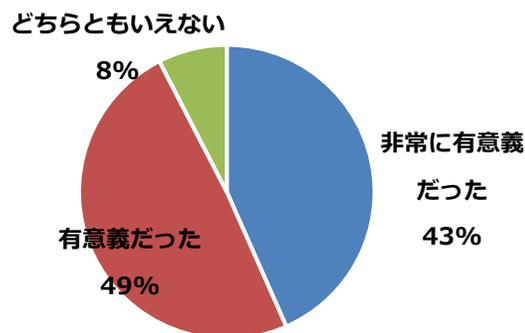
【コンテストでの学習等前後で関心は】



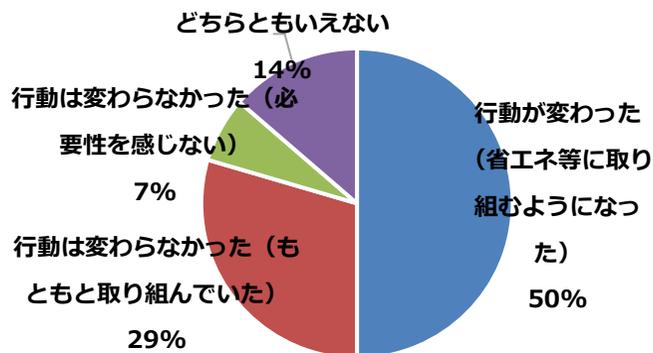
【コンテストは今後】



【コンテストへの評価は】



【コンテストでの学習等前後で行動は】



【参考】政策提案型パブリック・ディベートとは

政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聴き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会問題を解決するための政策について討論するゲームです。伝統的なディベートのスタイルから自由になって、このようなディベートを行うことによって、市民として資源・エネルギー・環境問題等の社会問題について考察を深めることを目的としています。

(参考) 令和4年度 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト (アンケート結果②)

アンケート結果 (自由記入) から抜粋・一部要約

【コンテストの継続を希望する理由】

- ・環境について考える機会が多いが、じぶんごととして考えることは難しいので、ディベート学習のような形式で主体的に取り組むことが重要である
- ・環境問題について自分たちで考えをもつことも、それを仲間と相談することも、相手チームと討論して新たな考えを生み出すことも、どれも全部大切なことだと思った。この生徒たちが将来大人になったら頼もしいなと感じた。
- ・まずカーボンニュートラルの問題を知ってる人は少ないと改めて実感。知ることによって、なにか小さいことでも個人でできるということがわかった。このコンテストはそれを知るきっかけになると感じた。
- ・このコンテストを行うことで色々な人が環境や省エネについて今まで以上に考えることができるからです！
- ・環境問題についての行動が変わったから。

【そのほかのご意見】

- ・今後、参加校が増え、環境問題に意識を高く持つ市民が増えるとよいと感じた。
- ・いろんな学校が参加し、今後も続いてほしいと思った。
- ・試合数を増やしてほしい。決勝に進めない場合、活動をしている時間が少なくなってしまう。
- ・人が審査するので仕方ない部分はあるものの、審査基準の見直しと統一を図るべきではないかと感じます。
- ・トークショーの時間をもっと長く、気軽に意見交換できる場にして欲しい。

・私は、このコンテストを通してカーボンニュートラルの問題について関心が深まりましたが、行動はあまり変わりませんでした。何故かと言うと、ほとんどの政策がカーボンニュートラルの実現に協力することでなにか報酬を与えるという仕組みにしていたからです。なぜカーボンニュートラルを実現しないといけいないのか、という所を本当の意味で理解していないと思う。もし、次もまたこのコンテストを開催するのなら、そういう所まで対話すればいいと思う。

・ディベートのチーム評価の部分の審査基準がかなり曖昧であるように感じた。一部審査員がガイドラインとは異なる基準を述べていた。

※ また、学校行事のご都合についてや、試合結果が同点の場合の取扱、審判の配置、評価等へのご意見等をいただきました。貴重なご意見を有り難うございます。来年度事業が実施可能となった際には、アンケート結果も踏まえ有識者の方とも意見交換をおこないつつ、実施方法を検討して参ります

令和4年度 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 実施体制・協力

主催：九州経済産業局、パブリック・ディベート実行委員会
(実行委員長：池田賢治福岡工業大学教授)

協力：特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟九州支部

後援：福岡県教育委員会、佐賀県教育委員会、長崎県教育委員会、
熊本県教育委員会、大分県教育委員会、宮崎県教育委員会、
鹿児島県教育委員会

北九州市教育委員会、福岡市教育委員会、熊本市教育委員会
朝日新聞社、産経新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、
読売新聞社 (新聞社は50音順)